

日本家族看護学会 第22回学術集会
理事会企画 研究促進委員会・編集委員会共催セミナー
「続 事例研究を投稿しよう―査読に対応して、掲載に至るまで―」

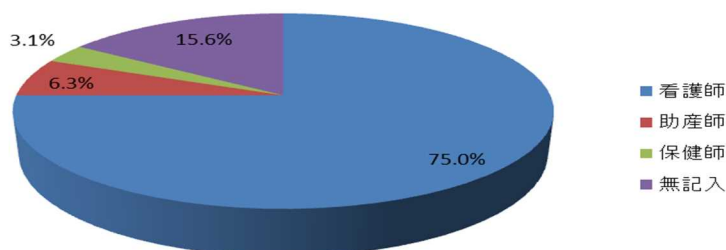
アンケート 集計結果

開催日時：2015年9月6日(日) 13:10-14:30

参加人数：78名

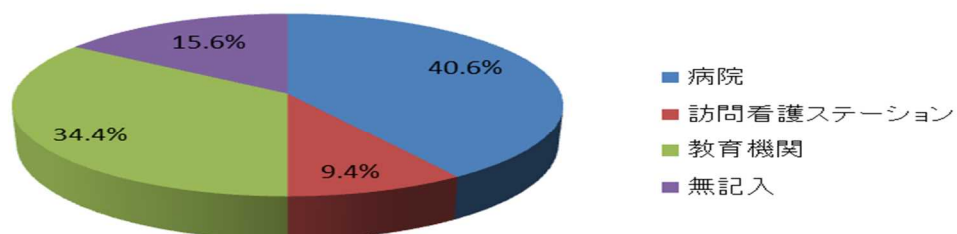
アンケート回答数：32名

1. 職種



回答者の職種について、アンケート回答者のうち、75%(24名)が看護師と最も多く、次いで6.3%(2名)が助産師、3.1(1名)が保健師であった。無記入は、15.6%(5名)であった。

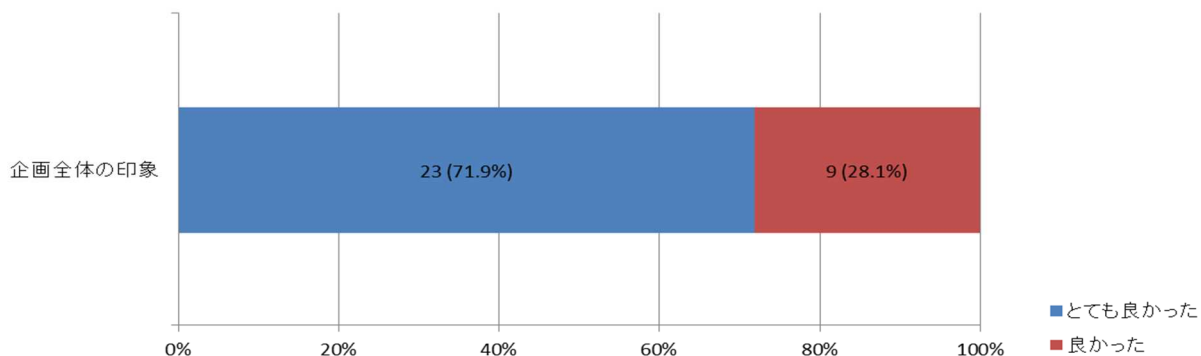
2. 所属



所属に関しては、40.6%(13名)が病院と最も多く、次いで34.4%(11名)が教育機関、9.4%(3名)が訪問看護ステーションであった。無記入は、15.6%(5名)であった。

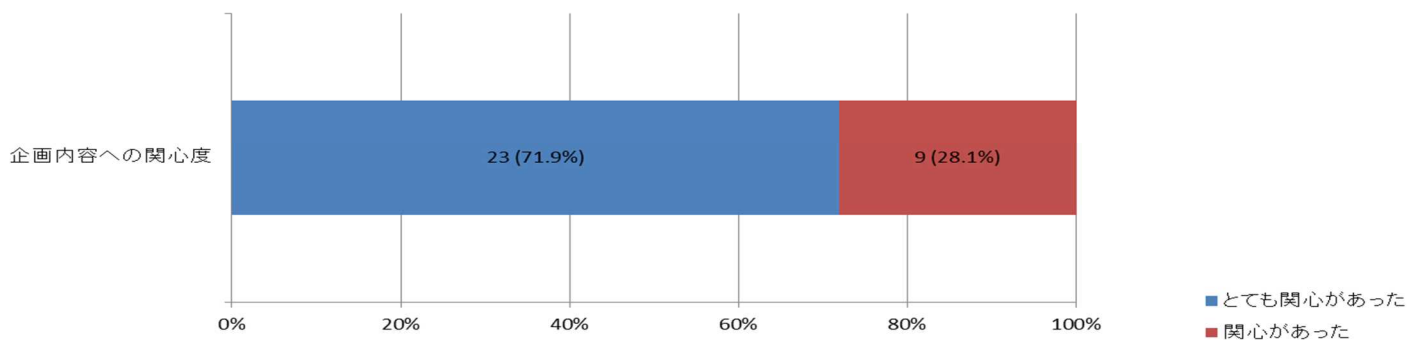
<セミナーに対する評価>

1. 今回の企画全体に対する印象はいかがでしたか。



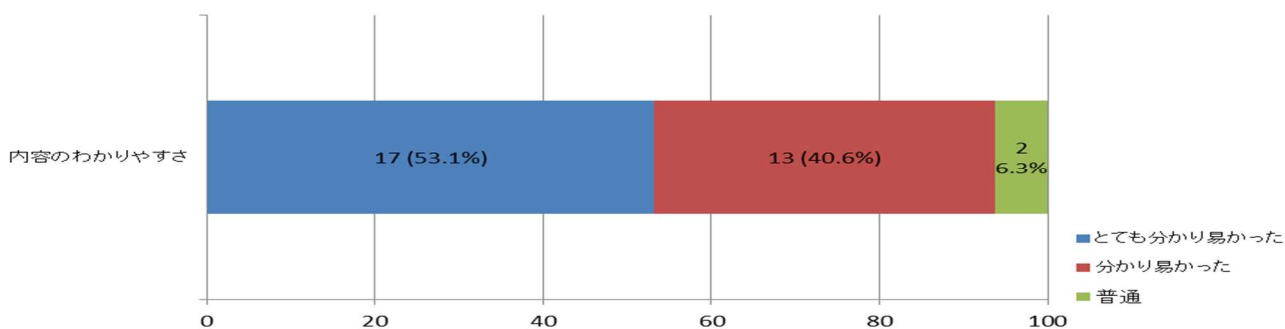
参加者は「とても良かった」(71.9%)、「良かった」(28.1%)と回答し、「普通」「良くなかった」「とても良くなかった」の回答は無かった。

2. 今回の企画の内容は関心のあるものでしたか。



参加者は「とても感心があった」(71.9%)、「関心があった」(28.1%)と回答し、「普通」「良くなかった」「とても良くなかった」の回答は無かった。

3. 今回の企画の内容はわかりやすいものでしたか。



半数以上の回答者(53.1%)が、「とても分かり易かった」と回答し、次いで40.6%は「分かり易かった」、6.3%が「普通」と回答した。

4. 今回、参加されて今後それぞれのお仕事の場で、事例研究を投稿したいと思われましたか。また、今後の研究促進委員会の企画で、希望されるテーマや内容がございましたら、ご自由にご記入ください。(自由回答)

1) 論文投稿への意欲

- ・投稿したいと思った。
- ・投稿はしたいと思わないが、事例研究はしていきたいと思った。どうか、職場から研究発表をしろと言われていたので、しないといけない思いと、自らの看護がどうなるのかふり返りの為にもやっていたいと思っている。
- ・臨床での限られた時間の中でも事例研究ができるような気持ちになりました。
- ・事例研究の投稿までは、引き続き指導したいと思います。研究の構成要素まで示されており、今後利用させていただきます。
- ・この夏に他の看護学会で事例を発表させていただきました関係で、事例研究を投稿する意味を本日考えております。NSが単なる作業のように日々仕事をするのではなく、立ち止まりふり返り日野原 Dr が言う所の看護は芸術だという所につなげたいと思います。

2) 今回のセミナーの構成について

- ・ディスカッションテーマが何についてディスカッションするのか分かりにくかった。
- ・現在、質的研究に取り組もうとしている最中で、具体的な査読のやり取りを提示していただき、グループディスカッションをしたことがとても良い学びとなりました。

3) 感想など

- ・グループワークは良いと思います。ただ発表となると、明らかに先輩の方をさしおいて発表につなげるのが少し難しいと感じました。
- ・病院勤務ナースがもっと研究できるためにはどうすればよいか。
- ・本日だけだとどう行っていたらよいかやはり難しく、スーパーバイズとなる方の存在は大きいと思いました。
- ・事例研究は面白いと思った。
- ・やってみないと、わからないこともあるか？と思います。
- ・臨床の看護研究で事例検討(ケースレポート)にとどまってしまうことがある中で、カテゴリー化などを行うことで、研究と呼べるものになるという先生のご意見がとても印象的でしたし、私もそう考えています。

4) 今後のセミナーへの希望

- ・今回のような事例を一緒に考える会を続けてほしい。
- ・具体的に自分の事例を相談できる会があるとうれしいです。
- ・事例研究における文献レビューのあり方。文献を紐解くときりがないので・・・。
- ・グランデット・セオリーについてももっと知ってみたいとなりました。
- ・研究テーマの探し方とテーマ名のあげ方。
- ・現在、緩和ケア病棟での家族への介入(看護) について情報を得たかった。また、退院支援に関わった患者さんご家族との事例をまとめるにあたり、参考にしたいと考え参加しました。事例をまとめるために企画は続けてほしいと思います。

まとめ 研究促進委員会委員 池田真理
会員 キタ幸子、副島堯史